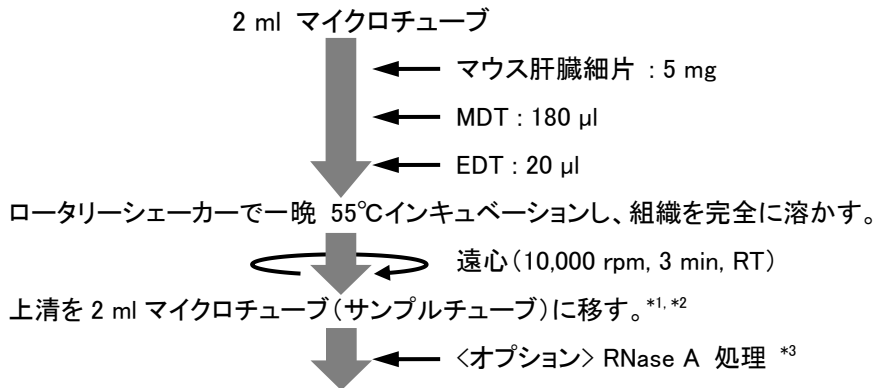


DA-b-8

自動処理_マウス肝臓からのゲノム DNA 分離

プロトコル



装置 (QuickGene-Auto12S/24S) にセット

Protocol: DNA TISSUE
(溶出液量 : 200 μ l ^{*4})

*サンプルチューブのセット方法については、

Quick Start Guide または取扱説明書を参照してください。

1. Pre-Heating (3 分間)
2. 180 μ l の Lysis Buffer(LDT) を添加
3. ピペッティングにより攪拌
4. インキュベーション (60°C, 5 分間)
5. ライセートを移液後、240 μ l のエタノール (>99%) と混合
6. ピペッティングにより攪拌
7. ライセートをカートリッジにアプライ
8. 加圧
9. Wash Buffer(WDB) で 3 回洗浄
10. 溶出液(CDT) を添加し、ゲノム DNA をコレクションチューブに回収

ゲノム DNA

*1 推奨のマイクロチューブ
#BM4020 (ビーエム機器)
#72.695.700(SARSTEDT)
#72.695.500S(SARSTEDT)

*2 溶解残渣分 (溶け残り、ゼラチン状) を分離除去するために遠心します。

*3 オプションステップ
RNaseA: 20 μ l
タッピングして溶液を混合
軽くスピンドウン
室温で 2 分間放置

*4 標準的な収量は、肝臓 5mg から 4.5 μ g です。推奨溶出液量は 200 μ l です。溶出液の容量は 50 μ l まで減らすことができますが、その場合、溶出効率が低下する可能性があります。

結果

ゲノム DNA（マウス肝臓 5 mg）の収量

サンプル ID	#1	#2	#3	#4	平均	S.D.
収量 (μg)	7.1	6.9	9.3	8.1	7.9	1.01

タンパク質の混入：A260/280

サンプル ID	#1	#2	#3	#4	平均
A260/280	1.92	1.90	1.92	1.99	1.93

カオトロピック塩の混入：A260/230

サンプル ID	#1	#2	#3	#4	平均
A260/230	2.17	2.02	2.08	2.20	2.12

共通プロトコルサンプル

マウス肺、マウス腎臓